歴史学者 朝河貫一（二本松市出身）

国際協調と平和訴え

二本松市出身の世界的な歴史学者、朝河貫一（1873～1948年）は、県尋常中（今の安積高校）と東京専門学校（今の早稲田大学）を卒業後にアメリカの大学や大学院で学び、エール大学の日本人初の教授になりました。論文「入来文書」が有名です。

日露戦争の後に「日本の禍機」という本を書き、国際協調と平和を訴えました。第2次世界大戦ではアメリカと日本の戦争を防ごうとして、大統領から昭和天皇への親書（手紙）を届けようとしたことで知られています。

福島県では、県内の中学生と高校生から国際社会での生き方などについて論文を募集する「朝河貫一賞」が毎年行われています。

【メモ】安積高校には「朝河桜」があります。朝河は英語の辞書を暗記するとそのページを破って食べ、残った表紙をこの桜の根元に埋めたといわれています。

▲ 7月31日　福島民友新聞掲載

きじをよんでおもったこと、みんなとはなしてかんじたことをかこう。(120字くらい)